

体内の放射性セシウム量を測定できる ホールボディカウンタ検査が受けられます

市では、次世代を担う子供たちの健康を守るためホールボディカウンタによる内部被ばく線量測定を実施します。福島第一原子力発電所事故の影響による内部被ばくに対し、個人個人が測定結果を知ることによって現状を確認でき、安心した生活を送れることを目指しています。

今回の内部被ばく線量測定は、福島県にある医療法人誠励会ひらた中央クリニックが「放射線内部被ばくなどについての心配を乗り越えることが心身への健康へとつながり、ひいては災害復興に貢献できる」とのボランティア精神で、18歳以下は無料で牛久市民の受け入れを快諾していただき、市が協定を交わし実現しました。なお、今回の実施期間中の検査対象は、4歳から中学校3年生までの方になります。



協定を交わす野口憲副市長(写真左)と佐川文彦ひらた中央クリニック理事長

実施期間 7月から12月までの土曜日および夏休み期間の計33日間

対象者 4歳(平成20年4月1日以前の生まれ)〜中学校3年生

※3500人予定(より多くの方が検査できるよう、病院との調整を行っていきます)。

※各学校などを通して案内をお渡しします。市内の学校などに通っていない方には個別郵送します。ご不明な点は、放射能対策室までお問い合わせください。

料金 無料(4歳〜中学校3年生)
※右記対象者以外の方には順次お知らせします(18歳までは無料、19歳以上の方は、ひらた中央クリニック設定料金の半額(6000円)です)。

協定病院 ひらた中央クリニック(福島県石川郡平田村上蓬田字大隅30)

※同クリニック周辺の空間線量は0.13マイクロシーベルト/時程度

測定器機 立位型ホールボディカウンタ(CANBERA社製 FASTSCAN 2251型)

交通手段 市バス、市借り上げバスで送迎

Q ホールボディカウンタって何？何が分かるの？

A 測定した時点で体内に存在している放射性物質(放射性セシウム)の量を測定する機械です。放射性物質が野菜や魚介類など食物の摂取や呼吸によつて体内に取り込まれ被ばくすることを「内部被ばく」といいます。体内に取り込まれた放射性セシウムは約90日で半分が体外へ排出されるため、体内の状況は日々変化しますが、測定日の「放射性物質の量」から「被ばく量」を推定していきます。

原発事故から1年以上過ぎた現在では、当時の影響を推定することは困難であるため、毎日の食事などからの摂取として推定することになります。検査時間は約2分です。

Q 茨城県内で測定できるところはないの？

A ホールボディカウンタ機器は全国で106台、茨城県には県原子力発電所、JAEA(日本原子力研究開発機構)所有のもの17台あります(平成23年6月6日時点)。国や各県、所有している医療機関に問い合わせるところ、長崎大学国際被ばく者医療センター以外は、市民の受け入れは困難な状況でした。理由として、ホールボディカウンタは緊急事故時の現場対応時のみ使用であることや、福島県からの避難者対応としての稼働であり、一般には使用されていないということでした。

茨城県は、福島県の健康調査結果や有識者の見解により、県内の状況は放射線によつて健康に影響が及ぶレベルではないため、ホールボディカウンタなどの検査実施よりもリスクコミュニケーションにより放射能をより正しく理解する事に力を入れていく方針です。



ひらた中央クリニックで使用している立位型ホールボディカウンタ

問 放射能対策室(環境政策課内)

☎内線1568、1569